

**渋谷区小中一貫教育校
(猿楽小学校・鉢山中学校)
建て替え準備委員会**

第4回

2025年5月20日



開催日	議題
2025年 5月20日	1 開会 2 議題 (1) 建て替え準備委員会スケジュールについて ・第1回～第3回のおさらい (2) 第3回建て替え準備委員会の振り返り ・第3回建て替え準備員会で出た課題について (3) 今回の議題について ・建物配置について ・学校施設の機能ゾーニング (4) ハード面以外の検討について ・検討スケジュール（予定）他 (5) 次回の主な議題について ・アンケートの実施について ・基本計画（素案）の説明

建て替え準備委員会スケジュールについて

2-1

	日程/時期（仮）	議 題（仮）
第1回	10/22（火） 10：00～11：30	・ご挨拶、委員、事務局の紹介 ・建て替え準備委員会の設置及び会議の運営について ・渋谷区『新しい学校づくり』整備方針の概要について ・渋谷区小中一貫教育校（猿楽小学校・鉢山中学校）建て替えの概要 ・既存施設と法的規制について ・次回の主な議題について
—	①11/19（火） ②11/28（木） 16：00～17：00	・渋谷本町学園視察
第2回	12/13（金） 16:30～18:00	・渋谷本町学園視察について ・第1回建て替え準備委員会の振り返り ・必要諸室について
第3回	2/7（金） 16:30～18:00	・学校環境の整備方針 ・ラーニング・コモンズの使い方 ・地域開放の考え方
第4回	5/20（火） 17:00～18:30	・建物配置について ・学校施設の機能ゾーニング
第5回	6月	【基本計画（素案）の説明】
第6回	8月	【基本計画（案）の説明】

	日程/時期	議 題
第1回	10/22 (火) 10:00~11:30	・ご挨拶、委員、事務局の紹介 ・建て替え準備委員会の設置及び会議の運営について ・渋谷区『新しい学校づくり』整備方針の概要について ・渋谷区小中一貫教育校（猿楽小学校・鉢山中学校）建て替えの概要 ・既存施設と法的規制について ・次回の主な議題について

新しい学校づくり 整備方針の概要



渋谷区本町学園の紹介



法規制について



小中一貫教育校 整備方針の概要



一足制の導入検討



敷地周辺の分析



	日程/時期	議 題
第2回	12/13 (金) 16:30~18:00	・渋谷本町学園視察について ・第1回建て替え準備委員会の振り返り ・必要諸室について

渋谷区本町学園視察について①

渋谷区立渋谷本町学園視察について

2025.11.22(土) 12/13(金) 一般公開日 建て替え準備委員会資料



＜基本情報＞
平成24年4月開校 創立13年目
児童生徒数 857名（小学校671名、中学校226名）
学校数 34学校（小学校26、中学校8） 校舎数
教員数 120名

＜小中一貫教育の取り組み＞
・5・6学年の6段階
・5・6学年の1年単位担任制（英語、理科、音楽科、図画）
・中学校教員による5・6学年授業への一関文
（英語、音楽、体育、外国語）
・国語科の小学校5年生から参加
・部活（全校制、クラブ制、校種別）
・部活動は6年生が活躍の中心として参加

＜課題＞
・時代の
・教育の
・教育の
・教育の

ハザードマップ



必要諸室について①

部門	主な諸室	延べ面積(m ²)
普通教室等	普通教室（小学校2クラス×6年×1主室、中学校2クラス×3年＝1主室）、学入教育室（学入室）、特別支援教室等	約1,020
特別支援学級等	特別支援学級、フリースペース、特設学習室など	約430
ラーニング・コモンズ	図書スペース、ラーニングスペースなど	約1,000
特別教室等	理科室（小・中）、図工室（小）、音楽室（小）、技術室（小）、音楽室（小・中）、家庭科調理室（調理室）など、音楽室、フリースペースなど	約1,510
管理諸室等	校長室、副校長室、事務室、教務主任室、生活指導室、地域連携室、生涯学習委員会、図書室、保健室、サポータールーム、学校管理室、教務主任室など	約1,670
給食調理室	調理室、事務室など	約140
体育施設等	体育館（2）、武道場、剣道場、柔道場、剣道場、剣道場	約3,520
放課後クラブ	放課後クラブ室、放課後クラブ室など	約1,610
其他部	地下1階に機械室など	約1,610
合計面積(m ²)		約19,620

＜参考＞各校の延べ面積
国語小学校：4,554m²、国語中学校：5,554m²、国語本町学園：15,794m²

新築諸室は、国語小学校と国語中学校の合計（10,743m²）に対して約1.45倍の規模計画となります。

渋谷区本町学園視察について②

視察	内容
1. どのような環境で活動しているのか。	国語小学校の環境について説明している。
2. 国語小学校の環境についてどのような特徴があるのか。	国語小学校の環境について説明している。
3. 国語小学校の環境についてどのような特徴があるのか。	国語小学校の環境について説明している。
4. 国語小学校の環境についてどのような特徴があるのか。	国語小学校の環境について説明している。
5. 国語小学校の環境についてどのような特徴があるのか。	国語小学校の環境について説明している。
6. 国語小学校の環境についてどのような特徴があるのか。	国語小学校の環境について説明している。

一足制について

一足制について	国語小学校（一足制）
区の方針	一足制について、国語小学校は国語小学校の環境について説明している。
国語小学校	国語小学校の環境について説明している。
国語小学校の環境について	国語小学校の環境について説明している。
国語小学校の環境について	国語小学校の環境について説明している。
国語小学校の環境について	国語小学校の環境について説明している。
国語小学校の環境について	国語小学校の環境について説明している。

必要諸室について②

既存校との諸室比較①	国語小学校（一足制）	国語中学校（一足制）	国語本町学園（一足制）
国語小学校	国語小学校の環境について説明している。	国語中学校の環境について説明している。	国語本町学園の環境について説明している。
国語中学校	国語中学校の環境について説明している。	国語中学校の環境について説明している。	国語本町学園の環境について説明している。
国語本町学園	国語本町学園の環境について説明している。	国語本町学園の環境について説明している。	国語本町学園の環境について説明している。
国語本町学園	国語本町学園の環境について説明している。	国語本町学園の環境について説明している。	国語本町学園の環境について説明している。
国語本町学園	国語本町学園の環境について説明している。	国語本町学園の環境について説明している。	国語本町学園の環境について説明している。
国語本町学園	国語本町学園の環境について説明している。	国語本町学園の環境について説明している。	国語本町学園の環境について説明している。

	日程/時期	議 題
第3回	2/7 (金) 16:30～18:00	・学校環境の整備方針 ・ラーニング・コモンの使い方 ・地域開放の考え方

学校環境の整備方針

学校環境の整備方針

学校環境の整備方針

- 立体的な敷地面積を活かした学習環境の実現
（敷地と敷地面積の中で、校舎環境をさらに確保する計画があります。
敷地の周辺を活用して、アクセスしやすい建物環境をさらに一歩進めたいと考えています。
- 地域開放と生徒の安心・安全な学校生活の両立
校舎環境の安心を確保し、今後両立を図るために学校環境を整える計画があります。
校舎環境と児童・生徒の安全を確保し、安心・安全な学校生活を確保します。
- 小中一貫教育を体現できるラーニング・コモンの設置
立体的なラーニング・コモンズを、敷地と校舎環境を整えることで実現します。
学校環境を整え、安心・安全な学校生活を確保します。



ラーニング・コモンの使い方①

ラーニング・コモンの使い方

ラーニング・コモンズを設置しました。



地域開放利用における安全対策①

地域開放利用における安全対策の考え方

セキュリティの基本方針

- ① 校舎、校舎・生徒のいない時間帯に地域開放を行う。校舎開放時には校舎内を開放し、校舎・校舎外を開放する。
- ② 地域開放の敷地の入口を1箇所に絞り、必ず窓口で身元を確認してから入校する。
- ③ 地域開放エリアと他の学校エリアの動線を分離してアクセス可能な範囲を限定する。
- ④ 地域開放利用中はカードキー等により登録された利用者のみ入室できるようにする。
- ⑤ 地域開放利用中は校舎専用エリアへの入室はできないようにする。



ラーニング・コモンの使い方②

ラーニング・コモンの使い方

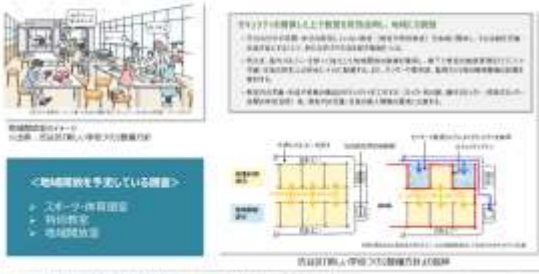
子供達がタブレットや本で情報収集しながら主体的に学ぶ機会があります。
一人で集中する学び、グループで協働する学びなど様々な学習スタイルに対応できるように計画します。



地域開放の考え方

地域開放の考え方

地域開放とは、地域のスポーツ交流やコミュニケーションを図る場として、学校教育に活用しながら、地域と学校・施設を連携していく方針とします。



地域開放利用における安全対策②

地域開放利用における安全対策の考え方

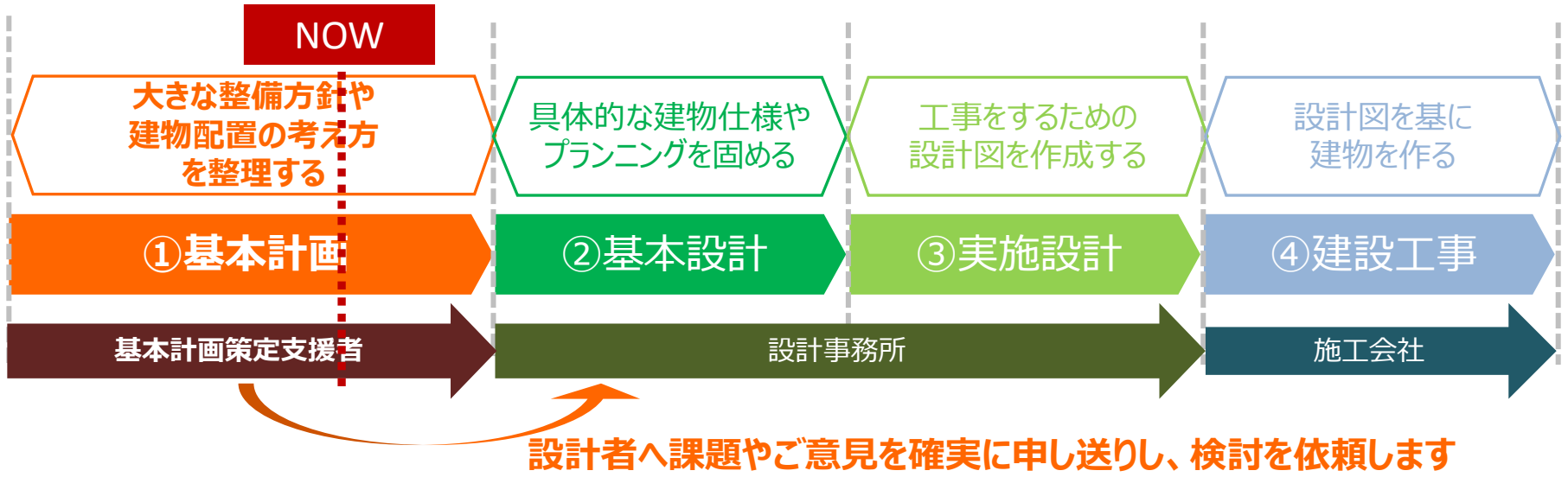
設計段階で、それぞれのセキュリティレベルに合ったセキュリティ仕様を検討していきます



第3回建て替え準備委員会の振り返り

2-2

建て替え準備委員会にて出た“計画に関わる各ご質問やご意見”は、事務局側で整理し、各フェーズで適切に対応していきます。



前回の建て替え準備委員会が出た“計画に関わるご質問”等

項目	具体的な検討フェーズ
道路から直接校庭に入れる計画となるか。	①②で検討
児童・生徒の入口と地域開放の入口は分けられると良い。	①②で検討
大人数のイベントで学校開放してきたが、これまでに問題は起きたことはない。建て替え後の地域開放用窓口では受付が対応できないのではないかな。	②③で検討

今回の議題について

2-3

- ・建物配置について
- ・学校施設の機能ゾーニング

部門	主な諸室	概ねの面積(m ²)
普通教室等	普通教室（小学校2クラス×6年＝12室、中学校2クラス×3年＝6室）、少人数教室(9室)、特別支援教室など	約3,000
特別支援学級等	特別支援学級、プレイルーム、特支トイレ、特支準備室など	約400
ラーニング・コモンズ	図書スペース、オープンスペースなど	約1,100
特別教室等	理科室(小・中)、図工室(小)、美術室(中)、技術室(中)、音楽室(小・中)、家庭科被服室・調理室(小・中)、各準備室、フューチャールームなど	約1,500
管理諸室等	校長室、応接室、職員室、事務室、職員会議室、生徒会室、地域開放室、PTA室兼同窓会室、放送室、保健室、サポートルーム、学校管理室、校歴保管庫など	約1,700
給食関係諸室	調理室、事務室など	約500
体育施設等	体育館×2、武道場、用具倉庫、屋内プール、開放管理室、備蓄倉庫など	約3,500
放課後クラブ	放課後クラブ室、放課後クラブ事務室など	約300
共用部	廊下・階段・機械室など	約3,600
合計面積(m ²)		約15,600

<参考>各校の延床面積※ 猿樂小学校：4,884㎡、鉢山中学校：5,859㎡、渋谷本町学園：15,794㎡

※出典：「令和5年版 渋谷の教育」建物面積より



新築建物の規模は、現状の鉢山中学校（5,859㎡）に対して、約2.66倍となります。

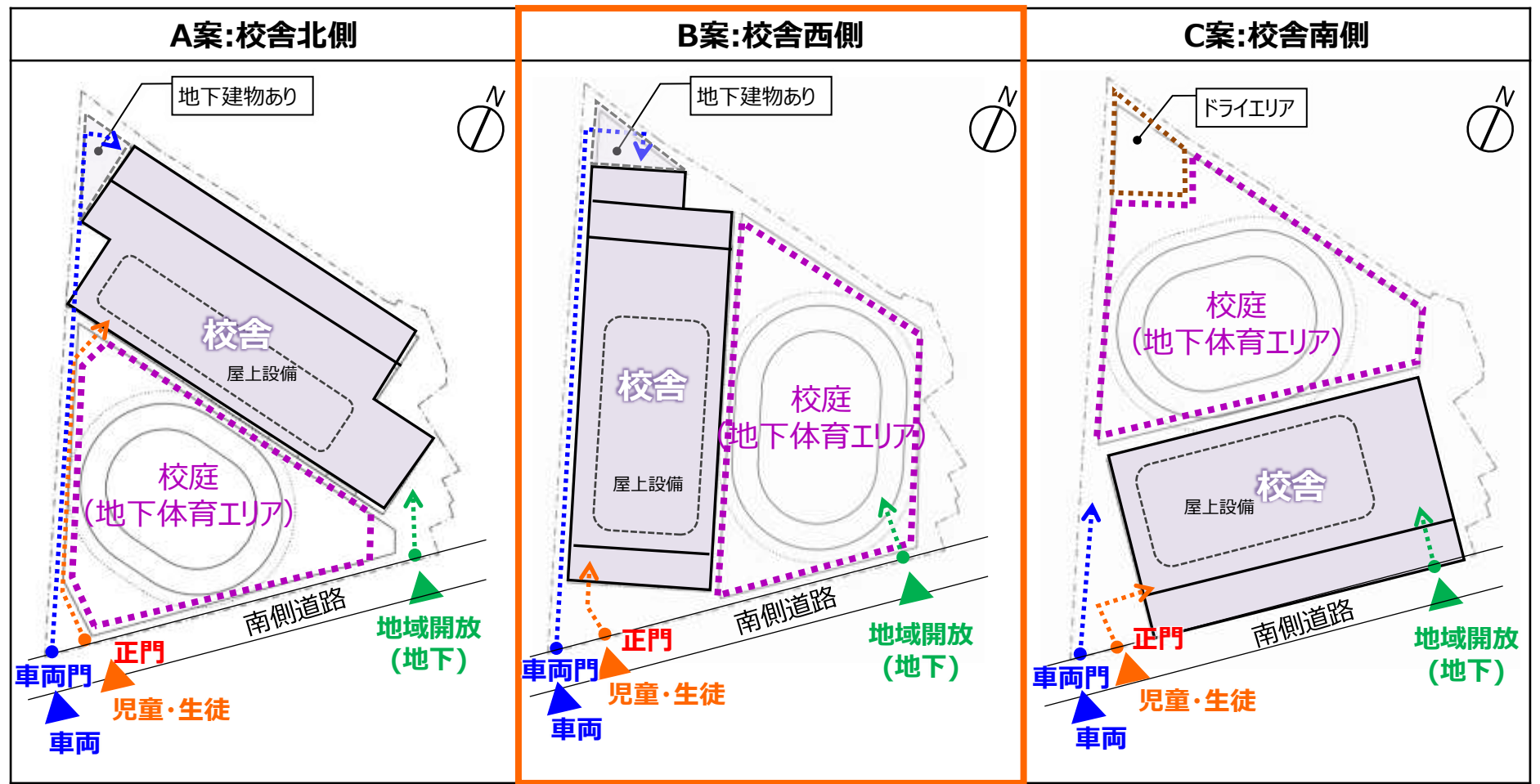
一方で、現状の猿樂小学校と鉢山中学校の合計（10,743㎡）に対しては、約1.45倍となります。

地上部に校舎、校庭地下に体育エリアを想定して校舎配置を検討します
延床面積15,620㎡→校舎棟:地上4階+体育エリア:地下3階で想定 ※体育エリア…体育館、プール、武道場を示す

	既存(現状)	A案:校舎北側	B案:校舎西側	C案:校舎南側
配置イメージ(例)				
校舎の断面イメージ(例)				
校庭広さ	約2570㎡	約2850㎡ (不整形)	約2900㎡ (概ね整形)	約2900㎡ (不整形) ※既存体育館ドライエリア部分は、斜面となり校庭利用が困難
トラックサイズ	約115m (内周計測) レーン幅1.0m×5レーン	約100m (内周計測) レーン幅1.2m×5レーン	約120m (内周計測) レーン幅1.2m×5レーン	約110m (内周計測) レーン幅1.2m×5レーン
近隣との関係(北・東)	—	・北側は現状より圧迫感が増 ・東側は現状より圧迫感が増 ・校庭の活動音は校舎により低減	・北側は現状より圧迫感が低減 ・東側は現状より圧迫感が低減 ・校庭の活動音が伝達しやすい	・北側は現状より圧迫感が低減 ・東側は現状より圧迫感が増 ・校庭の活動音が伝達しやすい

※高度斜線・道路斜線等の制限位置の取り方・3 m以上の高低差がある地盤面は未算定のため、今後の行政相談や検討で変更となる可能性があります。
※日影検討における平均地盤面は現況校庭面付近としており、地下計画による平均地盤の算定・反映は行っていないため、今後の検討で変更となる可能性があります。

青字：メリット、赤字：デメリット

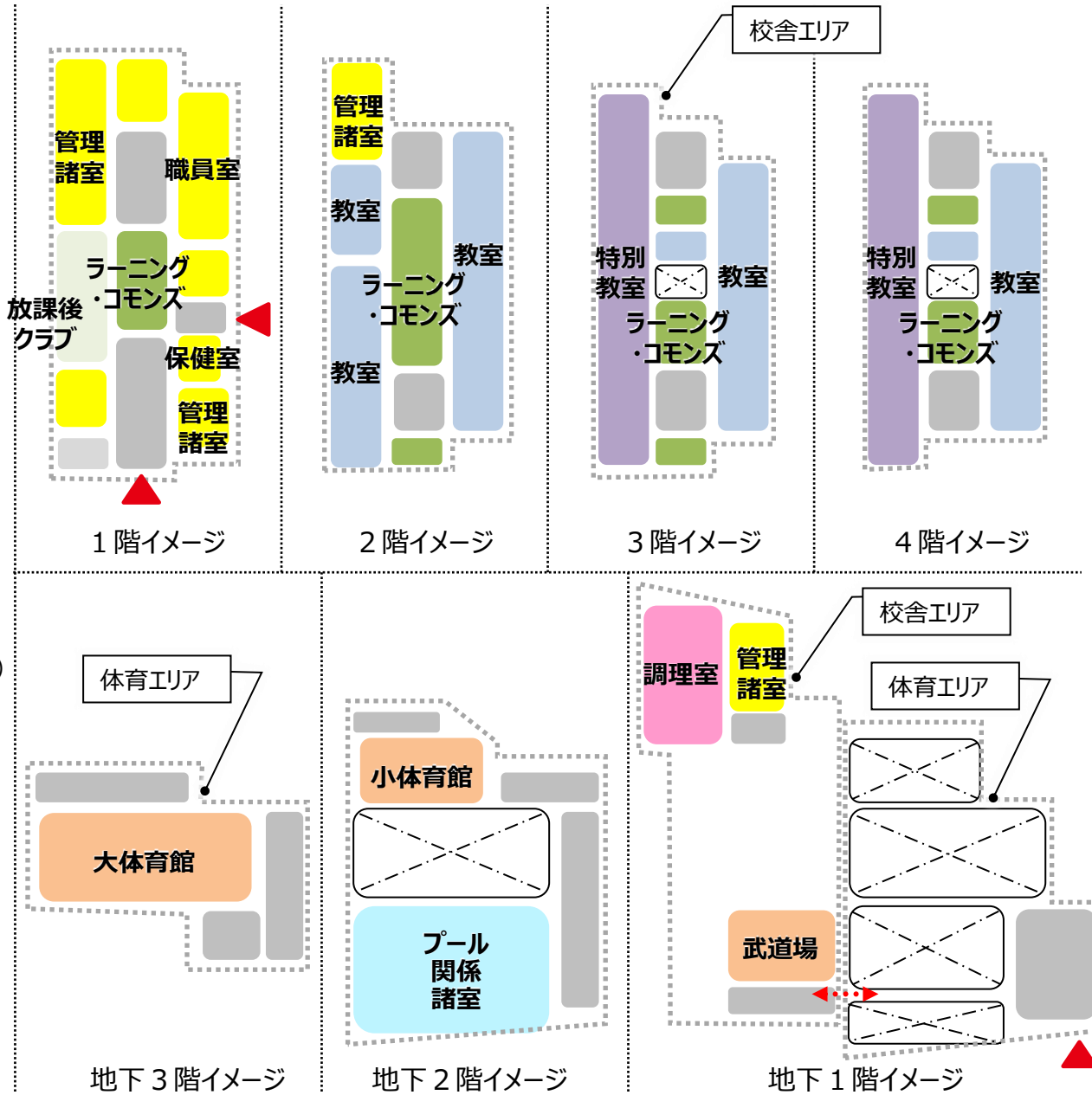


機能配置の考え方

新校舎の中心にはラーニング・コモンズを配置し、普通教室や特別教室などをラーニング・コモンズに面するように配置することで、多様な学習スタイルにも対応できる場とすることを目指します。

また、地域開放動線と生徒動線を明確に分離することを目指します。

- 凡例
- ：教室（普通教室・少人数教室
特別支援教室 特別支援学級 等）
 - ：ラーニング・コモンズ（図書・オープンスペース等）
 - ：特別教室（理科室・美術室・音楽室 等）
 - ：管理諸室（職員室・保健室・更衣室 等）
 - ：給食関連（調理室・厨房関係諸室 等）
 - ：体育関連（体育館・武道場等）
 - ：体育関連（プール関係諸室）
 - ：放課後クラブ
 - ：共用部（階段・エレベーター・トイレ 等）
 - ▼：主出入口



ハード面以外の検討について

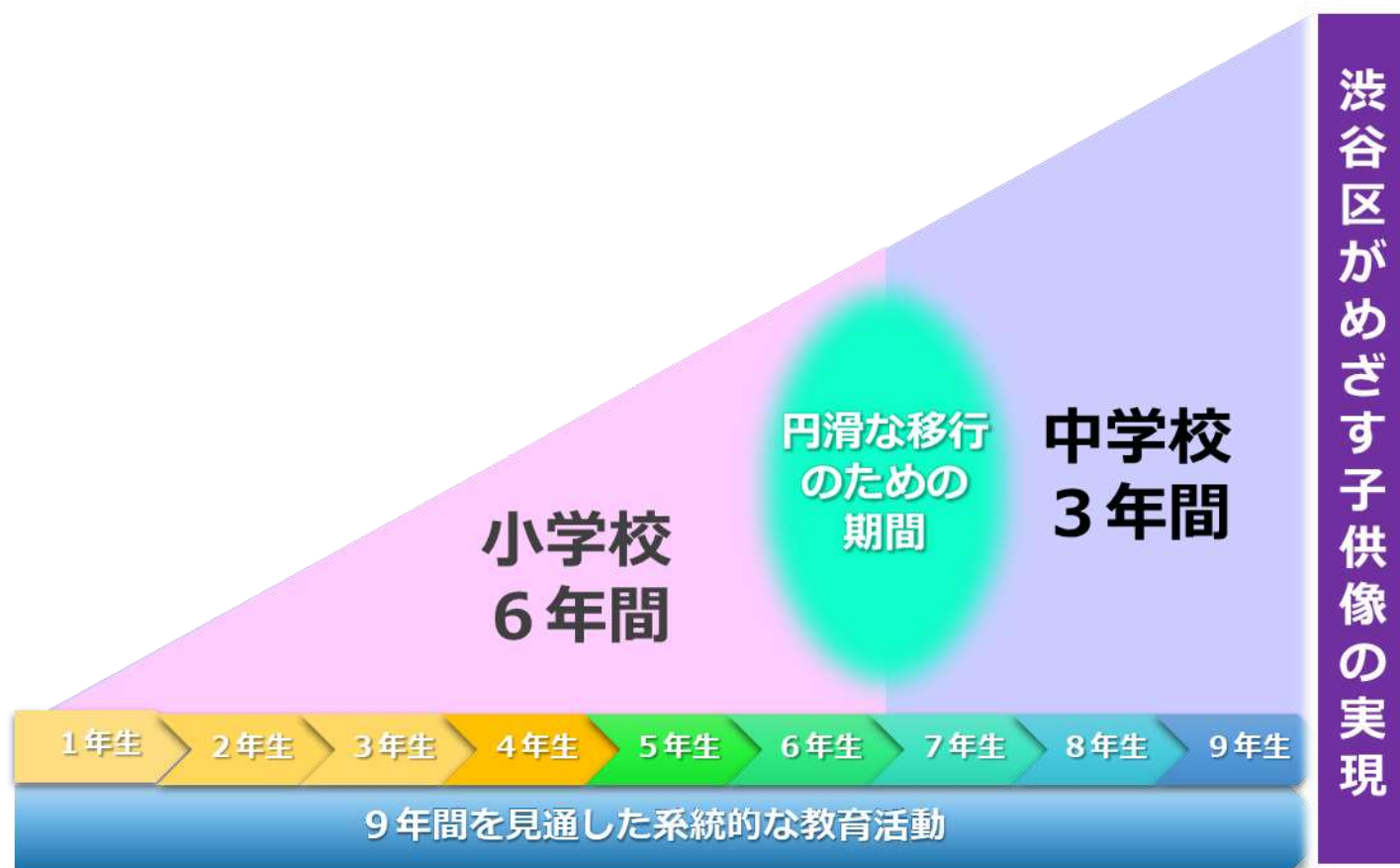
2-4

- ・検討スケジュール（予定）
- ・一貫校の制度、一貫校化について
- ・一貫校の課題や懸念と解決策・対応策について
- ・学校名、学校の特色について
- ・小学校跡地の利用について
- ・今後の情報共有について

※公開用に編集しています。

15

小中一貫教育とは、小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、
9年間の見通しをもって系統的な教育を目指す教育です。



Q 渋谷本町学園では、初等部（1～4年）・中等部（5～7年）・高等部（8・9年）で行っていると学校パンフレットに記載されています。

渋谷本町学園と同様に4-3-2制となると、中学生（7年生）から入学する子ども（同じ中学校区内の小学校の児童）が入りづらく感じるのではないのでしょうか。

A 渋谷区の小中一貫教育校における学年段階の区切りは、「小学校6年間、中学校3年間」の枠組みを基本とします。

例えば、同じ鉢山中学校の学区内にある長谷戸小や常磐松小など、猿楽小以外の卒業生も7年生から入学しますが、学習の進捗は同様であるため、教育課程の問題は生じません。

なお、一貫教育校では、いわゆる「中1ギャップ」等の教育課題に対応するため、小学校段階と中学校段階との間に、円滑な移行のための取組を意図的に設けています。例えば、部活動や生徒会などに5年生から参加するなど、緩やかに中学校へ移行する取組を行っています。渋谷本町学園で実施している4-3-2制もこの取り組みを示しているものです。

Q 一貫校にすることによるメリットは何でしょうか。

- A**
- 1 学習の流れの統一：9年間の見通しをもって学習に主体的に取り組むことができ、学習の連続性が確保されます。
 - 2 多様な関わり：多様な教職員や児童・生徒と関わる機会が増え、中学校進学に対する不安感が軽減されます。
 - ・ 小学生と中学生が関わる機会の増加
 - ・ 教員数の増加
 - 3 連続性のある教育：生活指導・学習指導において9年間を見通した連続性を意識した教育が行えます。
 - 4 教職員の負担軽減：小学校と中学校に必要な事務の一体化

Q 校内に中学生がいるため、小学校高学年におけるリーダー性の育成が阻害されるのではないか

A 小学校高学年が主体的に行事の運営に携わり責任感や自立心、自覚を高めるよう工夫します。例えば、始業式と終業式、小学校1年生の入学式や中学校1年生の進級式は小中合同で行いつつ、運動会や文化祭、制服や私服の別はこれまで通りの小学校・中学校の区切りで行ったり、6年生の卒業式、9年生の卒業式は別日開催にするなどして、小学校6年生の児童の出席を確保しています。

Q 小中一貫教育校に中学校から入学する生徒の心理的負担感があるのではないか

A 中学校から入学する生徒に対しては、学区域内の小学校と交流を多く持ち、児童・生徒同士、児童同士が中学校入学前から関わりを持てるような教育活動を進めます。万が一、心のケアが必要となった場合には、スクールカウンセラー、教育センターの教育相談機能等も活用し、児童・生徒一人ひとりの気持ちに寄り添った丁寧な対応に努めます。また必要に応じて、丁寧なガイダンスを行ったり、補習や家庭学習の課題をきめ細かに出したりなどのフォローを行います。

もとより、入学後の学校に円滑に適応できるようにすることは、一貫校のみならず、通常の小・中学校においても重要なことであり、児童・生徒や保護者に対するきめ細かな対応を行うことが責務であると考えます。

Q 小学校と中学校の教員の連携の難しさや、多忙化・多忙感がでるのではないか

A 中学校教員による小学校での交流授業や授業補助を行い、児童・生徒理解に関する情報交換や連携を深めたりするなどの取組を行います。小学校高学年への教科担任制を導入する場合には、複数の学級で同じ教育内容を扱うことから、教材準備が深く、かつ効率的に行えるということが考えられます。

また、小学校と中学校それぞれで任命してきた校務分掌を、小学校段階と中学校段階どちらかの教員に担わせることが考えられます。加えて、専科指導を小・中学校段階の双方にまたがった指導を行うといった工夫も考えられます。

Q

建て替え委員会はハード面を検討する場と認識していますが、学校名や校歌などどのように検討が行われるのでしょうか。

また、学校名についてはどんな案がありますか。「鉢山」「猿楽」「原宿外苑」「千駄谷」の名称は残りますか。

A

渋谷本町学園の場合は、開校の約2年前に検討委員会が立ち上げられ、アンケート等を実施した後、学校設置者（区）が決定を行っています。

猿楽小学校・鉢山中学校、千駄谷小学校・原宿外苑中学校の小中一貫教育校についても、同様の手順を踏むことが想定され、令和12年頃から検討を開始する予定です。

渋谷本町学園と同様に、地域のご意見を聞きながら校名を検討しますが、最終決定は学校設置者（区）が行います。卒業生の思い出と歴史を尊重しつつ、未来の児童・生徒のために新たな小中一貫教育校のビジョンを構築することを目指し、慎重に検討します。

Q

学校の特色については、どのような会議体で、いつ発足し、決定していきますか。

A

中学校の特色については、区としての教育政策の方向性を踏まえつつ、区立中学校8校の状況や地域特性等を考慮し、教育委員会において学校長との協議のもと、総合的に判断して設定します。

また、学校の特色は、新設校になったから検討をするというものではなく、その時々の方針に合わせて検討するものと考えています。

Q

猿楽小の金山交流は継続しますか。

A

学校長の判断の下、実施されている事業と認識しており、教育委員会としても、継続して実施されることを期待しています。

Q

猿楽小学校跡地についてはどうなりますか。

A

猿楽小学校跡地は、周辺校建て替えのための代替校舎として利用します。また、代替校舎としての利用が終了した後は、「渋谷区『新しい学校づくり』整備方針」に記載のとおり、第2グラウンドとしての活用を想定していますが、今後の地域のニーズ等を踏まえ検討します。具体的な検討は、代替校舎としての利用が終了する数年前からになるものと考えています。

渋谷区立小学校・中学校建て替えロードマップ 令和5年（2023年）3月改定

	第1期（今後10年間）										第2期（次の10年間）										※
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040	2041	
鉢山中学校																					
猿楽小学校										★1											
長谷戸小学校																					
広尾小学校																					
常盤松小学校																					

01 建物に関する説明会について

令和7年末に、**基本計画説明会**を実施いたします。

その他、実施設計時には、近隣住民に向けた「**渋谷区中高層建築物等の建築に係る紛争の予防と調整に関する条例**」に基づく**説明会**の実施もいたします。

開催日時・方法や周知範囲については未定ですが、決まり次第お知らせいたします。

02 新入生や保護者への説明会について

各校で毎年開催している**新入生向け学校説明会等**にて、建て替えの影響を受ける学年に向けてご説明いたします。

また、Home&Schoolやコドモンへの配信、保育園などとも連携をしながら周知に努めていきます。

次回の主な議題について

2-5

- ・アンケートの実施について
- ・基本計画（素案）の説明

保護者や地域の思いや声を把握し、学校の改築を進める際の参考とさせていただくことを目的に、WEBアンケートを実施します。

＜実施概要＞

実施時期：令和7年7月上旬～中旬

実施対象：保護者、地域住民の方々

実施方法：WEBアンケート

周知方法：児童・生徒を通して家庭へ配付、近隣住民の方々へポスティング

配布資料：アンケート実施案内、基本計画（素案）抜粋版

＜アンケート内容（案）＞

Q1 猿楽小・鉢山中の建て替えにあたり、大切であると思われる事項

Q2 その他、猿楽小・鉢山中の建て替えに関してご意見

具体的なアンケート実施内容は、次回の建て替え準備委員会で説明します。